

書殿にして饑酒する日の倭歌四首

八七六番

天あまと飛ぶや 鳥とりにもがもや 都みやこまで 送おくりまをして
飛とび帰かへるもの

八七七番

人ひともねの うらぶれ居をるに 竜たつた田やま山 み馬ま近ち付かか
ば 忘わすらしなむか

八七八番

言いひつつも 後のちこそ知らめ とのしくも さぶし
けめやも 君きみいまさずして

八七九番

万よろづよ代よに いましたまひて 天あめの下した 奏まをしたまはね
朝みかど廷と去さらずて